

## 令和4年度 一般選抜（C日程）における小論文出題意図及び解答例

国際経済学部

### 1. 小論文問題作成の基本的な考え方について

国際経済学部では、アドミッション・ポリシーで大学入学までに身に付けておくことが望ましい知識・能力・態度として挙げた高等学校における学力の三要素、「知識・技能」「思考力、判断力、表現力」「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度」に関して学力評価を行うこととしています。小論文試験は、このうち主に「思考力、判断力、表現力」として、経済社会のさまざまな動きや変化に対する探究心を有し、自らの考えを論理的に表現し、わかりやすく伝えることができることを評価することを目的としています。

### 2. 試験問題の内容および出題の意図について

（内容）

本試験にて提示される問題文は、最低賃金の引き上げによる雇用への影響について書かれた新聞記事の一部を改編したものである。

（意図）

問1については、景気拡大が雇用を増加させることを理解しているとともに、本文から「景気拡大による効果」と「最低賃金の引き上げの効果」との関係を理解し、前者の効果が後者の効果を上回り、雇用が減少しなかった場合が多いことを簡潔に記述することを求めている。

問2については、60歳人口の増加などの日本の人口構成の変化や、高齢者の雇用促進などの社会環境の変化について理解しているとともに、これらから60歳以上の短期労働者が増加したことを論理的に説明できることを求めている。具体的には、以下の事例などを2つ以上挙げ、論理的に記述することを求めている。

- ・ 60歳以上人口の増加
- ・ 少子化による働き手不足から、（小売り：コンビニなどで）60歳以上労働者の活用が増加
- ・ 60歳以上雇用を促進する政策（再雇用制度）が浸透
- ・ 年金支給開始年齢の引き上げにより、支給開始年齢まで収入を補填する必要性が増加

問3については、本文から「労働市場」と「賃金決定力」との関係を理解し、2007年の雇用が減少した製造業の企業が競争的な労働市場に置かれ、賃金決定力がなかったことを簡潔に記述することを求めている。

問4の1)については、問いの注で示された式を正しく理解し、計算することを求めている。具体的には、D地域の最低賃金をXとし、問いの注で定義された加重平均の式に、表1で示された数値を代入することにより次式をえる。

$$900 \times 1,000 + 920 \times 1,500 + 940 \times 2,500 + X \times 4,000 = 1,000 \times 9,000$$

これを解くことにより解をえる。

$$X = 4,370,000 \div 4,000 = 1,092.5 \quad \text{答. } \underline{1,092.5 \text{ (円)}}$$

2)については、本文から「最低賃金」と「労働生産性」の関係を理解し、労働生産性が引上げた最低賃金を下回る地域の雇用は減少し、上回る地域の雇用は必ずしも減少しないことを、表1の値を参照し、各地域について論理的に記述することを求めている。

### 【解答例】

問1

最低賃金引上げによる雇用が減少する効果よりも、景気拡大による雇用が増加する効果が上まわり、全体としては、雇用は低下しなかった場合が多いと考えられる。

(74字)

問3

2007年の最低賃金引上げにより雇用を大きく減少させた製造業の企業は、労働市場で決定される相場の賃金を受け入れるしかなく、賃金決定力は無かったと考えられる。(78字)

問4の2)

A、B地域の企業の労働生産性は引上げた最低賃金を下回るため、A、B地域の企業は競争的な労働市場に置かれることになり、雇用を大きく減少させると考えられる。他方、C、D地域の企業の労働生産性は引上げた最低賃金を上回るため、C、D地域の企業は最低賃金の上昇を利益減少で吸収することができることになり、雇用を減少させる効果は小さいと考えられる。(168字)